

< 実践事例 品川区立鈴ヶ森中学校 >

1. 取組・活動名

「障害者スポーツについて学ぶ」

2. 取組・活動のねらい

- ウィルチェアラグビー、シッティングバレーボール、ブラインドサッカーなどの体験を通して、障害者スポーツについて理解を深める機会にする。
- 障害者スポーツを体験することで、相手の立場に立って物事を考えることの大切さを学び、行動に移せるようにする。
- 互いの違いを認め合い、個性を尊重し合うことの大切さに気付くことができる。

3. 教育課程上の教科名・時数

「市民科・3時間」「保健体育科・2時間」

4. 実施上の工夫

- ・障害者スポーツへの理解を深めるため、事前事後の学習として『オリンピック・パラリンピック学習読本』の「パラリンピック競技以外の障害者スポーツを体験しよう」、『よい、ドン!しながわ (5~9年)』の「品川区応援競技ブラインドサッカー」、『I'm possible 2-1』の「パラリンピックスポーツについて学ぼう」を活用した。
- ・特別授業について、学校便りや保護者向け通知などで周知し、保護者や地域から幅広く参観者を募った。

5. 本取組・活動の内容



「シッティングバレーボール体験」

- ・障害者スポーツの一つであるシッティングバレーボールの特性や基本的技法について学習した。
- ・生徒からは、「たやすくできると思っていたが、実際に体験してみたら難しかった。」「障害者も健常者も一緒に楽しめるスポーツだと思った。」等の感想があった。



「講演：共生社会の実現について」

- ・長野パラリンピック金メダリストを講師として招き、講演を実施した。
- ・障害者に対する日本と外国の意識の違いや環境の違いに気付くことができた。
- ・共生社会を実現するためには、固定観念を捨て、柔軟に発想を変えていく姿勢が重要であることを学ぶことができた。



「障害者スポーツについて学ぼう」

- ・どんな工夫をすれば、障害者がもっと多くのスポーツを楽しむことができるか、グループで話し合った。
- ・話し合いを通して、用具を工夫したりサポーターが補助したりすれば、誰もがスポーツを親しめるということに気付くことができた。
- ・障害者スポーツはたくさんの工夫や技術によって支えられていることを学ぶことができた。

6. 成果

- ・様々な障害者スポーツに対する興味・関心を高めるとともに、そのレベルが非常に高いことに気付かせることができた。
- ・これからの共生社会の実現に向けて、「自分たちに何ができるか」という考えや「少しの工夫で、不可能が可能になる」という視点をもたせることができた。
- ・障害者スポーツとして実施されている競技がまだ少ないことに気付かせることができた。しかし、ルールや用具を工夫することで、障害者と健常者が共に楽しめるスポーツとなることを実感させることができた。
- ・『よい、ドン!しながわ (5~9年)』（品川区教育委員会）を活用して、本区の応援競技であるブラインドサッカーの競技理念、ルール等について理解させることができた。さらに、ブラインドサッカー体験教室における選手との触れ合いの中で、相手の立場に立つことの大切さに気付かせることができた。